

古川さん、中野さんに総務大臣感謝状

4月18日、元行政相談員の古川喜和子さん（委嘱期間15年11ヶ月）、中野武夫さん（委嘱期間10年）に総務大臣感謝状が贈られました。市役所で行われた贈呈式で古川さんは「様々な相談を受ける中で自身の勉強にもなりました」と話していました。



西諸生コン組合が防犯ブザーを寄贈

4月19日、西諸地区生コンクリート事業協同組合（木田正美理事長）から防犯ブザー450個が寄贈されました。贈呈式で木田理事長は「未来を担う子どもたちに安心と防犯意識が高まれば」とあいさつしました。



「ジェイ」クラブ（柔道）が全国大会初出場

4月20日、柔道の「ジェイ」クラブが初の全国大会出場を前に市長を表敬訪問しました。同クラブは3月の県大会で見事優勝。古川舞主将は「いい結果を出せるよう頑張りたい」と抱負を話していました。



てげてげ運転を追放しよう

5月12日、交通安全キャンペーンが北西方・三本松の国道沿いで行われました。交通安全協会小林支部の主催で会員ら40名が参加。通行するドライバーにチラシやグッズを配布し、交通安全を呼びかけました。



教育研究センター研究員を委嘱

5月17日、教育研究センター研究員の委嘱状が教員22名に交付されました。研究員を代表し、南小の藤原章生教頭が「将来の日本を支える子どもたちの生きる力、人間力を育成する研究をしていきたい」と述べました。



大野俊朗小林警察署長が「今後も事故多発時間や路線などの取締りと啓発の強化を行っていききたい」と話していました。

“かも知れん”運転の徹底で“てげてげ運転”根絶

5月11日、てげてげ運転追放宣言式が市役所玄関前でありました。春の全国交通安全運動が始まる日に合わせて、市交通安全対策協議会が主催。4月に市職員に採用された立山裕也さんなど4人が「てげてげ運転の根絶に向け“かも知れん運転”を実施します」と宣言しました。



「火が垂れるように光る」のが由来のひとつと言われています。12日には小林小、24日は細野小、26日は南小の児童も授業を受けました。

生態と保護の理解深めて 出の山でホタル授業

5月11日、出の山名水ホタル館で西小林小の3年生28名がホタルについて学びました。授業では産業振興課職員が、ホタルの一生やオスとメスの見分け方などについてクイズを交えて説明。児童たちは「ホタルはなぜホタルという名前なのか」と質問をするなど理解を深めていました。

災害時に広域的な活動を 九州8県の防災士会が連携

5月8日、森永貞一郎記念館でNPO法人特定非営利活動団体日本防災士会九州ブロック支部連絡協議会の設立総会が開かれました。同協議会は支部間の連携を図り、防災士の活動と技術研鑽の支援を目的に設立。東田義夫同協議会長は「九州はひとつという思いで災害に備えていきたい」と話していました。



総会後には日本防災士会常任幹事総括事務の橋本茂さんによる、今後の日本防災士会の展望についての講演などが行われました。

気持ちよくホタルを觀賞して 出の山公園で奉仕作業

5月9日、出の山公園周辺で奉仕作業が行われました。約50人が参加し、草刈りやごみ拾いを実施。市観光協会の吉留高志会長は「今年も残念ながら祭りは休止となったが、ホタルを楽しみにしている人に気持ちよく觀賞してもらいたい」と話していました。



「出の山ホタル恋まつり」は休止しますが、通常の鑑賞はできます。ホタルの保護と環境整備に皆様のご理解とご協力をお願いします。



三松中吹奏楽部による演奏では、部員の男子生徒5人が曲に合わせてダンスを披露するなど場を盛り上げました。

患者や家族へ癒しの場を 市立病院でコンサート

4月23日、患者や家族へ癒しの時間を提供しようと、小林市立病院でスプリングコンサートが行われました。市立病院職員交友会が企画し、同会長の坪内斉志院長は「大変な入院生活の中、少しでも気分転換になれば」とあいさつ。病院職員らによるバンドやハンドベル、三松中吹奏楽部が参加しました。



参加者の1人目でいきなり1*おびつたりが出て、スタッフも来場者もビックリ！新鮮なきゅうりを使ったイベントは大好評でした。

新緑の風に吹かれて すきむらんどで滝まつり

5月4日、すきむらんどで滝まつりが開催されました。約60人が参加したウォークラリーでは家族連れなどが、須木の自然を満喫。山菜天ぷらの振る舞いのほか、ステージでは1*ちようどを目指して、特産の“すききゅうり”を袋につめるイベントが催され、来場者を楽しませました。